

薬学研究科

I	教育の水準	教育 14-2
II	質の向上度	教育 14-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成24年度入学者選抜試験から英語試験について TOEFL-iBT を導入し、総合的な英語力の判定を行っており、製薬企業等から要請の強い、国際的に活躍できる能力の見極めや、入学後の指導に活用している。
- 修士課程及び博士後期課程（薬科学専攻）の改組と、博士課程（薬学専攻）の設置により、薬科学専攻においては創薬研究者や教育者として求められる総合的な学問的素養と創造性を持った人材を、薬学専攻においては高度医療の担い手、医療薬学研究者や教育者となる人材を育成する教育課程としている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成24年度に採択された文部科学省博士課程教育リーディングプログラム「充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム」により、英語での講義、外国人教員による語学レッスン、英語でのディベート等を行い、国際的に活躍できる能力を有する人材の養成に取り組んでいる。

以上の状況等及び薬学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成26年度から講義科目ごとの授業評価アンケートを実施しており、平成27年度までの4回の調査結果では、理解度・明快さ・体系性、知的魅力・有益度、理解度への配慮、教員の熱意について、70%以上が肯定的に回答している。
- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における、学生が筆頭著者となっている論文総数は410件、学会発表総数は1,469件、学会等の受賞総数は168件となっている。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 22 年度から平成 26 年度における修士課程修了生のうち、就職は 70.7%、進学は 26.5%となっている。
- 平成 23 年度と平成 26 年度に実施した修了生の就職先の上司に対するアンケート結果（5 段階評価）ではいずれの年度も、修了生の実力を評価する設問について肯定的な回答は、「薬学に関する幅広い知識」はおおむね 90%以上、「薬学の一部領域に関する専門的知識」は 100%、「創薬研究に対する高い実験技術能力」は 80%以上、「基本的な論理的思考力や問題解決能力」は 100%となっている。

以上の状況等及び薬学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 24 年度に採択された文部科学省博士課程教育リーディングプログラム「充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム」において、英語での講義、外国人教員による語学レッスン、英語でのディベート等を行っており、国際的に活躍できる能力を有する人材の養成に取り組んでいる。
- 平成 24 年度入学者選抜試験から TOEFL-iBT を課すことにより、総合的な英語力の判定を行い、入学後の指導に活用している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学生の研究業績について平成 21 年度と平成 27 年度を比較すると、学生が著者に含まれる国際共著論文数は 16 件から 29 件、国際学会における発表数は 31 件から 53 件、学会等の受賞数については 10 件から 26 件となっている。
- 平成 26 年度から実施している講義科目ごとの授業評価アンケートについて、平成 26 年度前期実施分と平成 27 年度後期実施分を比較すると、肯定的な回答の割合は、「授業の理解度・明快さ・体系性」は 80%から 85.7%、「授業の知的魅力・有益度」は 89%から 90.4%となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。